

第3回 盛土に関する専門会議

北九州市都市戦略局開発指導課

説明項目

1 区域指定

宅造区域・特盛区域の区域案について

2 既存盛土調査

応急対策の必要性判断や

安全性把握調査実施の優先度付けの考え方について

1 区域指定

1 - 1 前回からの検討課題

1 - 2 境界の設定方法

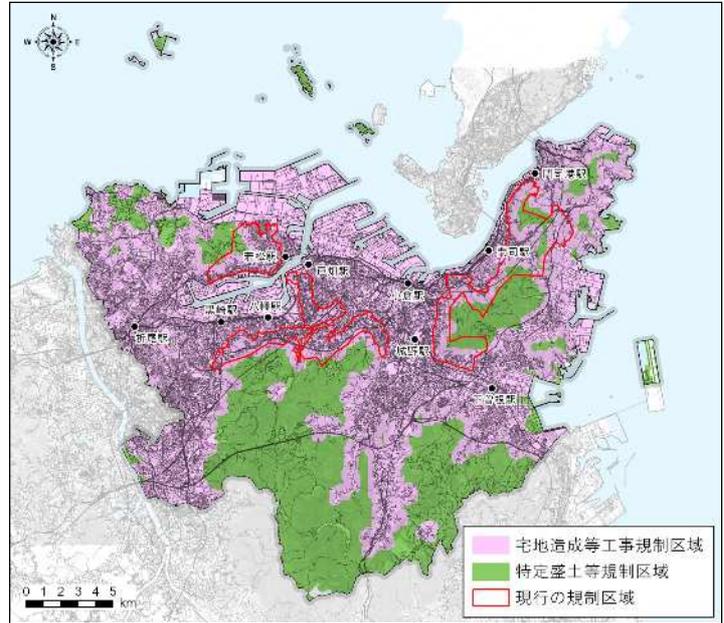
1 - 3 区域案

1 - 1 前回からの検討課題

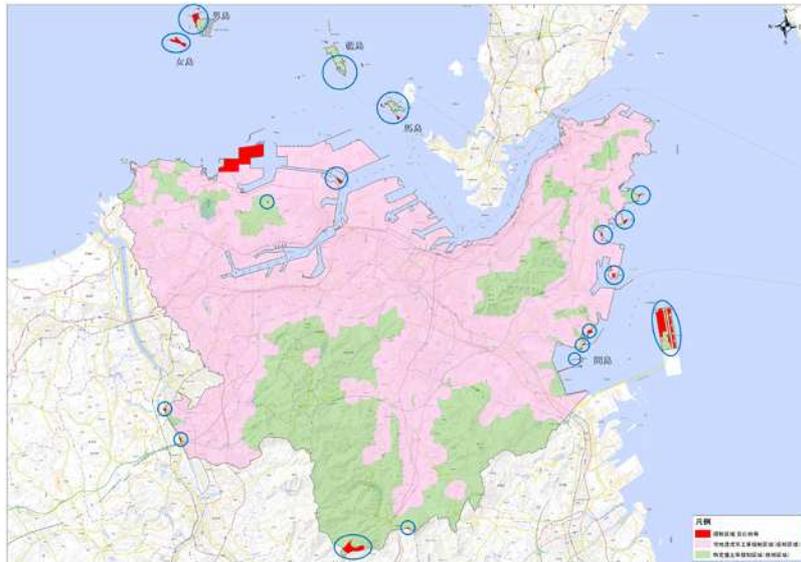
第2回盛土に関する専門会議

～ 検討課題 ～

- ①空白区域（宅造区域、特盛区域どちらにも設定されていない区域）の取り扱い
- ②現行の規制区域（旧宅造区域）の取り扱い
- ③宅造区域に囲まれた、狭小の特盛区域の取り扱い

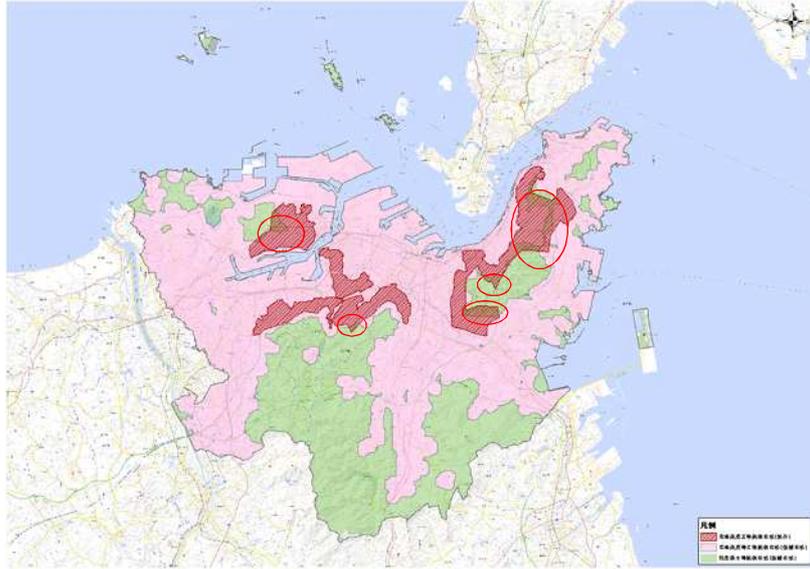


①空白区域の取り扱い



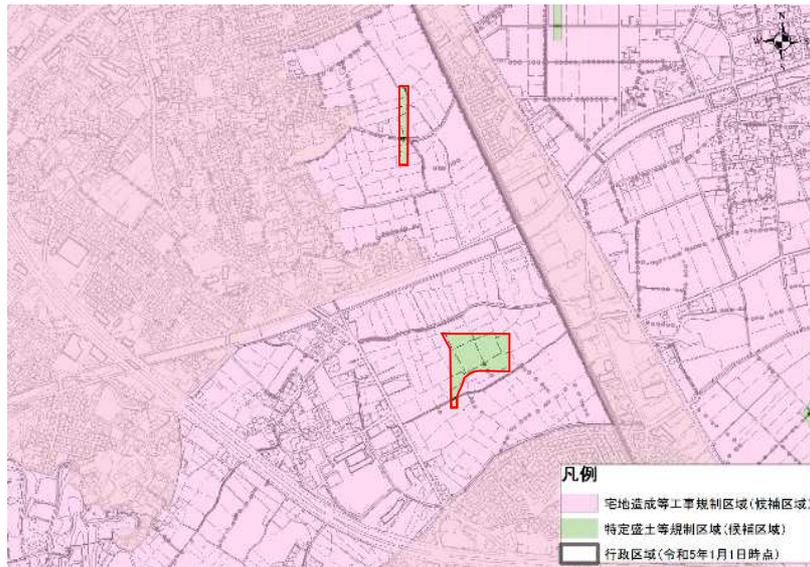
→ 離島や山間部においても将来的に盛土や不法投棄等の可能性有 → 特盛区域に設定

②現行の規制区域（旧宅造区域）の取り扱い



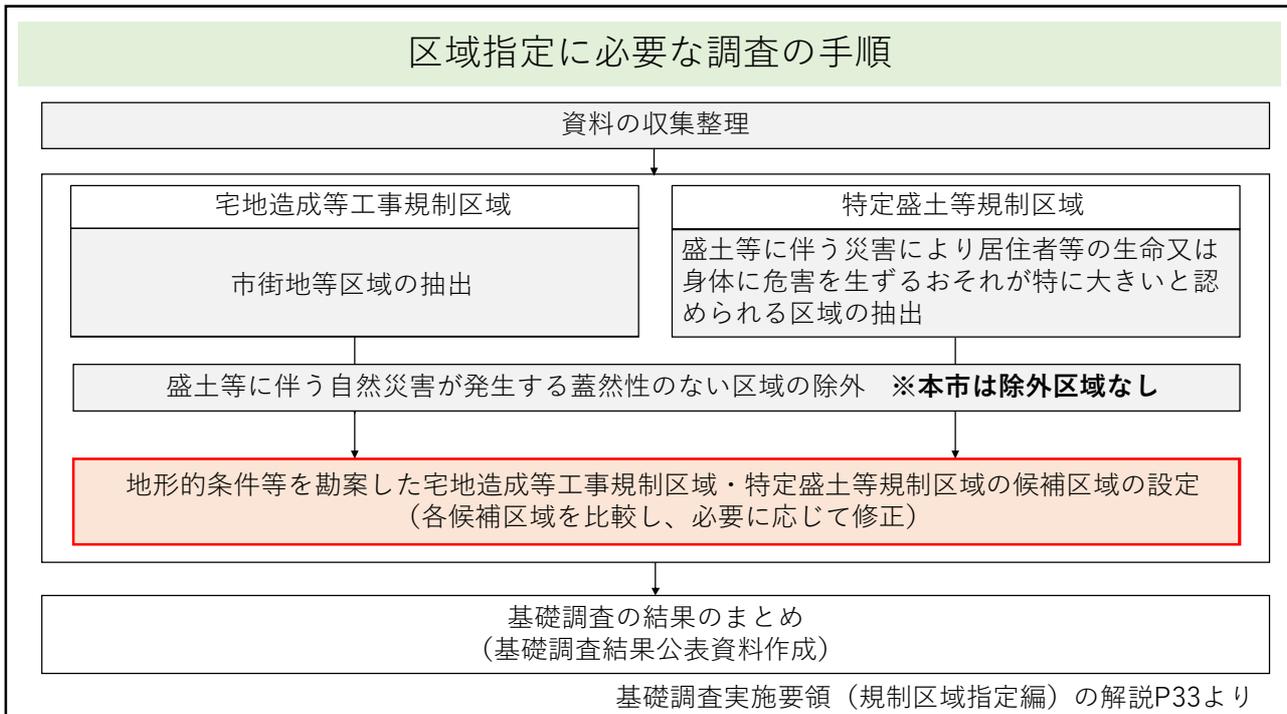
→ 旧宅造区域も従前と同等の基準で許可や指導を行うことが望ましい → 宅造区域

③宅造区域に囲まれた狭小の特盛区域の取り扱い



→ 基礎調査実施要領（規制区域指定編）に従い宅造区域として区域を併合

1 - 2 境界の設定方法



区域設定（宅造区域と特盛区域の境界など）の考え方

基礎調査実施要領（規制区域指定編）の解説P42より

- 候補区域の設定に当たっては、規制区域界を明瞭に判断できるよう尾根や傾斜変換点、河川、水路、道路、鉄道等の**地形・地物**や、同一の字等を活用して設定することを基本とする。
- 山間部の斜面中腹等、**明瞭な地形・地物がない場合**は、同一の字や**見通し線**を活用して境界を設定する。



図 明瞭な地形・地物がない場合の対応例

実施要領に基づき次のとおり整理する

区域設定（宅造区域と特盛区域の境界など）の考え方

北九州市の設定方針

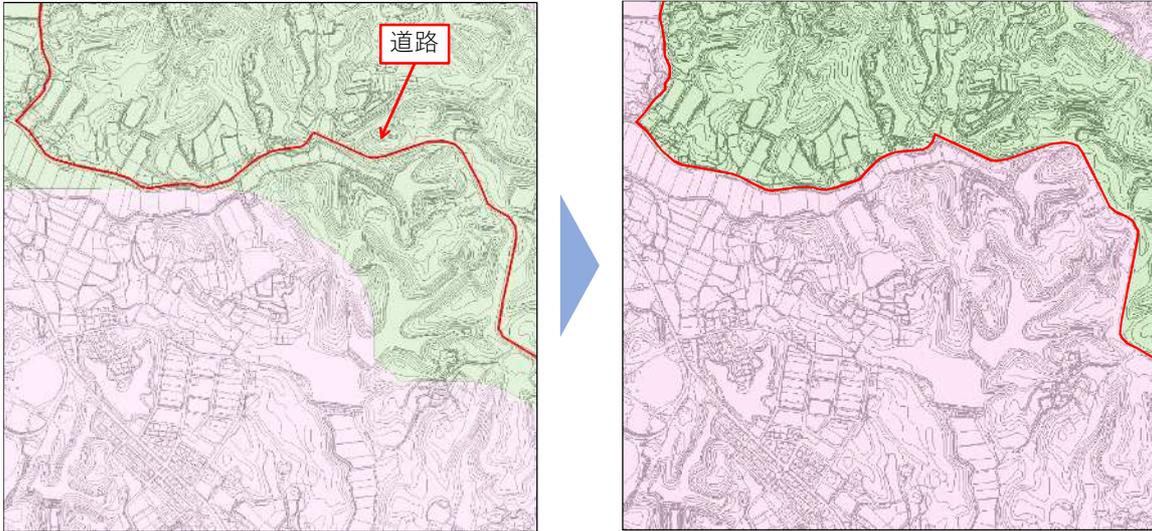
- ① **明瞭な地形・地物や行政界を境界として設定する。**
※このとき、道路や河川が連続して確認されない場合は、道路や河川の合流点や端部同士の見通し線を境界として採用する。
- ↓
- ② “①”の**明瞭な地形・地物が確認されない場合**は、**見通し線**を活用し、宅造区域候補地辺縁部から見通せる上部地点（山頂、三角点など）同士を繋いだ線を境界として設定する。

+

- ③ **隣接する自治体と接する区域等を考慮し**、必要に応じて区域を修正する。

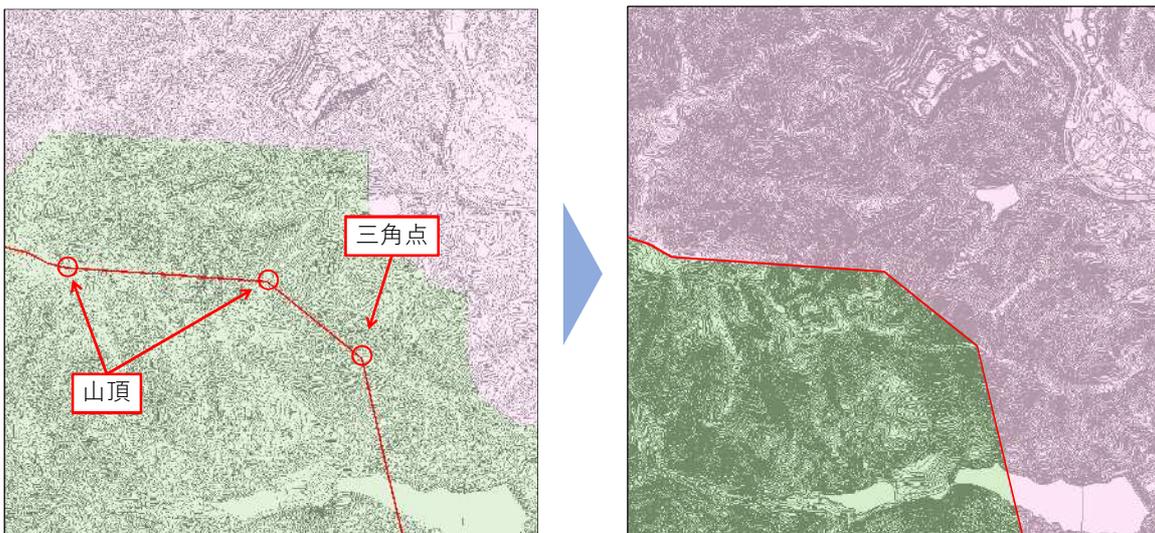
区域設定（宅造区域と特盛区域の境界など）の考え方

① 明瞭な地物（道路）を境界とした例



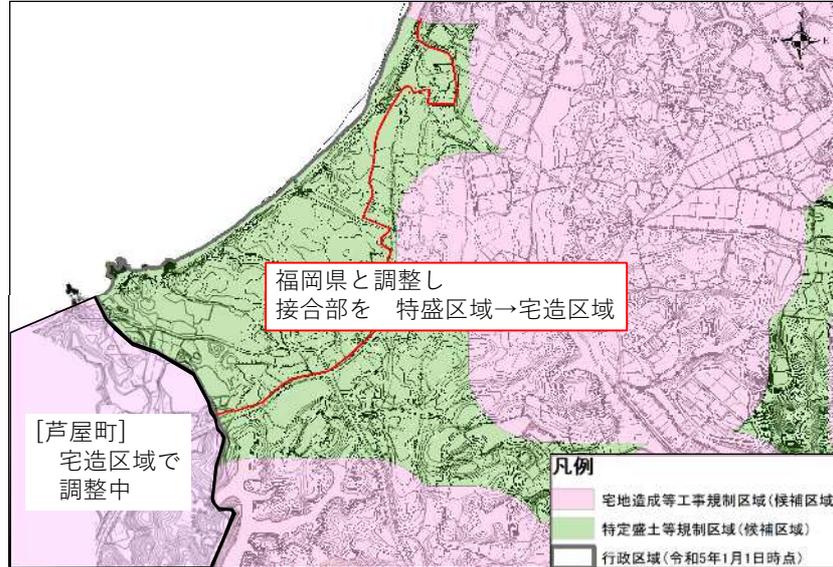
区域設定（宅造区域と特盛区域の境界など）の考え方

② 山間部の斜面中腹で、見通し線を活用した例

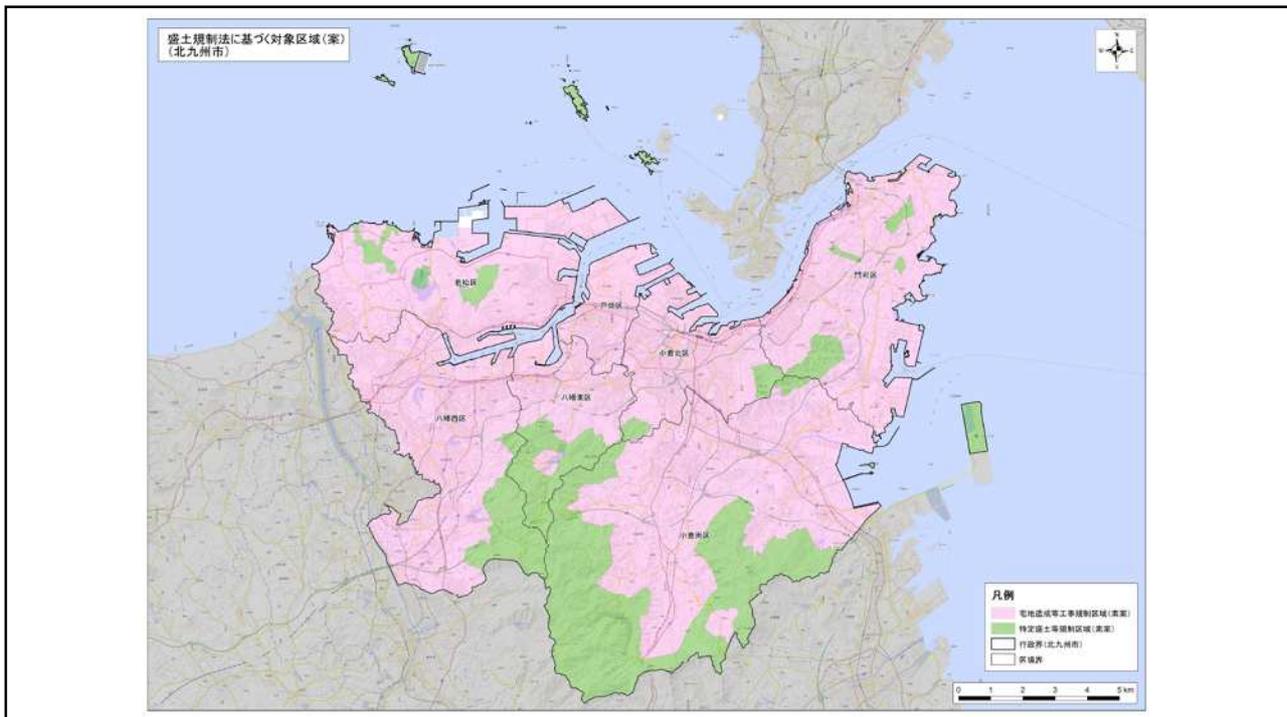


区域設定（宅造区域と特盛区域の境界など）の考え方

③ 隣接する自治体と接する区域を考慮して区域を修正した例



1 - 3 区域案



2 既存盛土調査

2 - 1 既存盛土調査の概要

2 - 2 応急対策の必要性判断 安全性把握調査の優先度評価

2 - 3 安全性把握調査

2 - 1 既存盛土調査の概要

盛土規制法では…

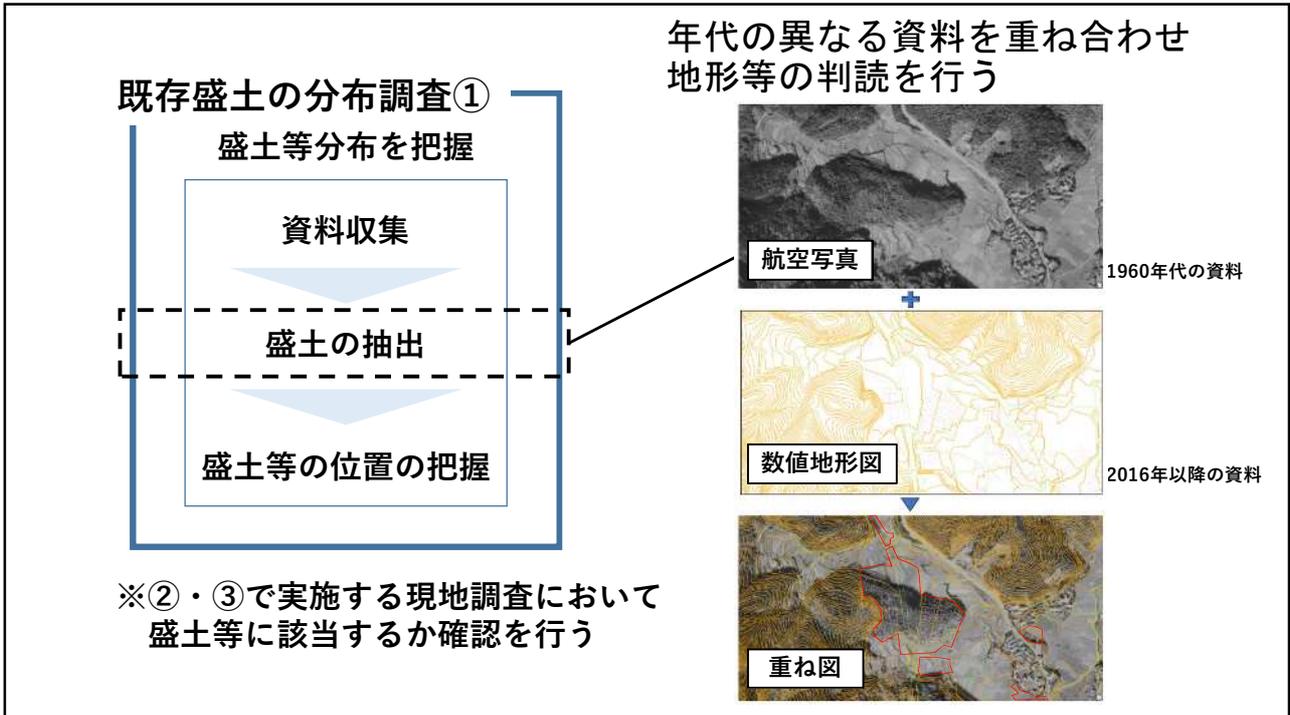
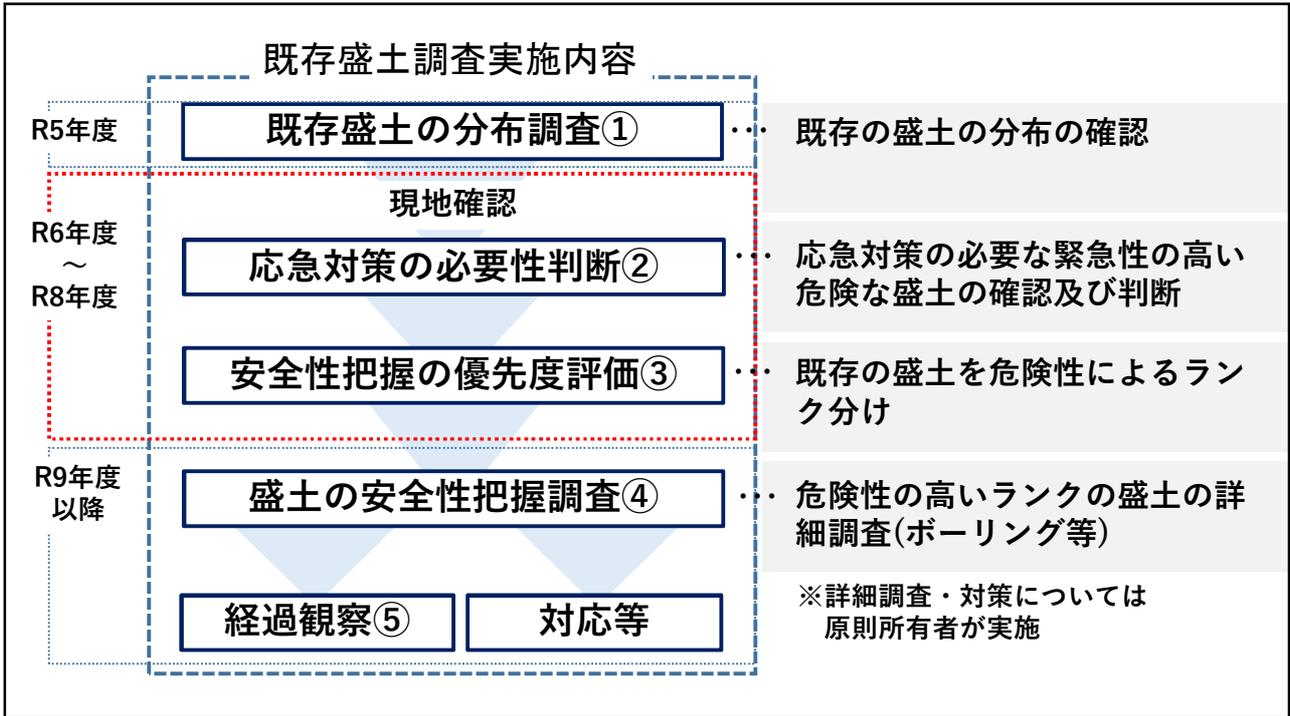
危険な既存盛土の所有者に対して 行政が指導等を行う

危険な盛土等の把握を行うために 既存盛土の調査を実施

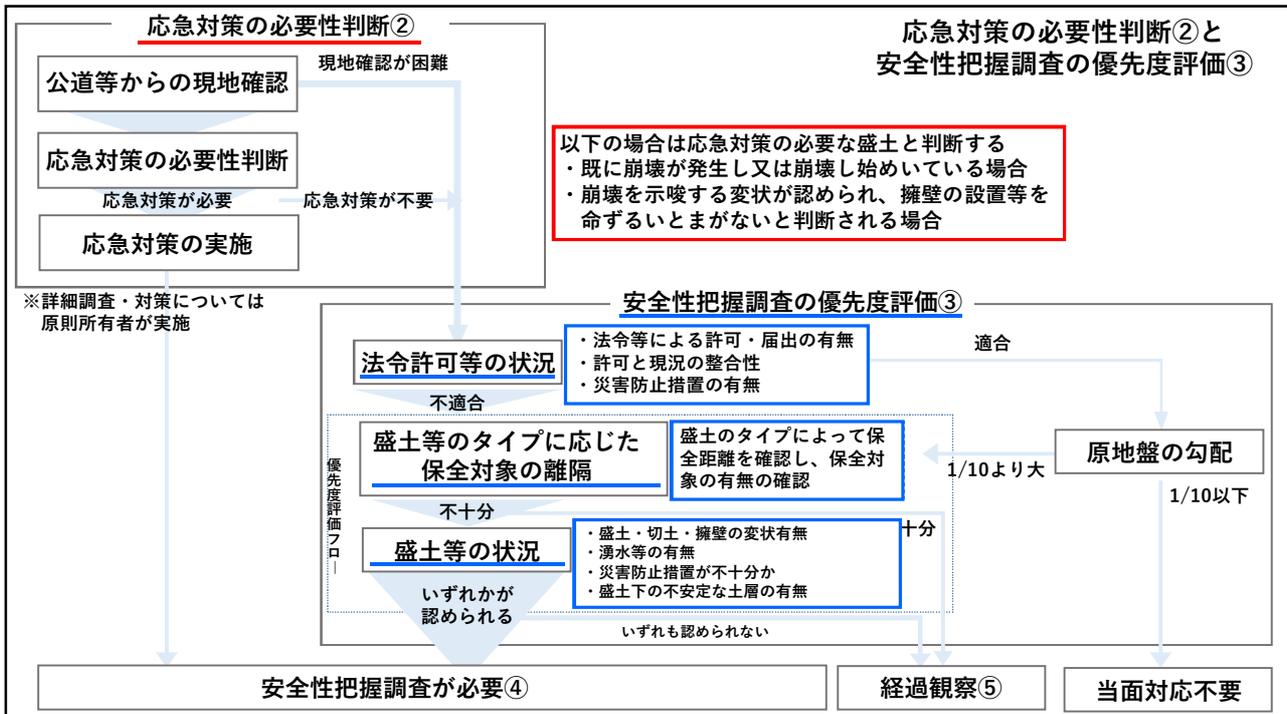
既存盛土調査を行うにあたって…

「盛土等の安全対策推進ガイドライン及び同解説」に

基づいて盛土等の抽出や現地調査などを行う



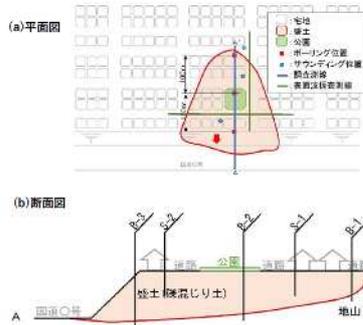
2 - 2 応急対策の必要性判断 安全性把握調査の優先度評価



盛土の安全性把握調査④

地盤調査

- ・ 調査ボーリング
 - ・ 原位置試験
 - ・ 室内土質試験
 - ・ 地下水位調査
- などを実施



調査計画の例



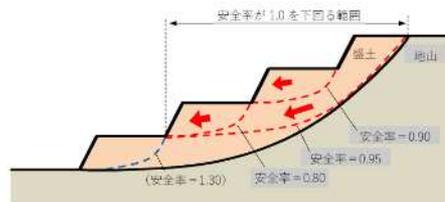
調査ボーリング



三軸圧縮試験

安定計算

滑り面に対する最大摩擦抵抗力等から求められる安全率が、常時及び地震時における安全率以上であるかどうかを確認する。



安定計算結果のイメージ